

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 20 日現在

機関番号：33302

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2010～2011

課題番号：22800065

研究課題名（和文） 近代建築アーカイブズ構築のための日欧比較調査研究

研究課題名（英文） Comparative study for organizing modern architectural archives in Europe and Japan

研究代表者

戸田 穰 (TODA JO)

金沢工業大学・基礎教育部・講師

研究者番号：00588345

研究成果の概要（和文）：日本とヨーロッパにおける近代建築に関するアーカイブズの比較調査研究を通じて、ヨーロッパ（とくにフランス・ベルギー・オランダ）における建築アーカイブズ成立過程を整理するとともに、日仏を例にとって建築資料整理の方法論の比較を行った。とくにヨーロッパについてはフランス建築協会 20 世紀建築アーカイブズに焦点をあて設立趣意・組織構成等を調査すると共に、資料データの構成について JIA-KIT 建築アーカイブズ（金沢工業大学）との比較を行った。

研究成果の概要（英文）：Through the comparative study on modern architectural archives in Europe and Japan, we research the process of foundation of architectural archives in Europe (especially in France, Belgium and Netherlands) and compare the methodology of archival materials for the Franco-Japanese case. Focused on 20th century archives in the Institut Francais d'architecture (IFA) in France, we investigate the organization and their collections, and compare IFA archives with JIA-KIT architectural archives (Kanazawa Institute of Technology) about the configuration of the archival data.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011 年度	1,050,000	315,000	1,365,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,050,000	615,000	2,665,000

研究分野：建築史

科研費の分科・細目：文化財科学・文化財科学

キーワード：建築アーカイブズ、近代建築

1. 研究開始当初の背景

①終戦から 65 年を経過し、国立西洋美術館の世界遺産登録運動にみられるように戦後の近代建築が、文化資源として社会的に認知されるに至った。都市再開発のサイクルの短い日本の都市において、建築の寿命は必ずし

も長くない。我々の現在ある建築・都市の歴史を知るには、現在ある建築だけでなく、過去にあった失われた建築・都市の姿も含めて、多面的に記述・記録そして記憶することが不可欠である。

②工学技術はイノベーション（技術革新）

を重ねることで陳腐化する宿命にある。一方で、今日サステナビリティが課題とされるように、建築は長期間に亘る使用が、エコノミーとエコロジー双方の観点から期待される。技術革新とともに技術保存が重要な課題である。また文化財として認知された建築の保存・修復においても、建設当初の技術の保存・復原が課題となる。

以上、文化史・技術史双方の観点から建築における建築史の重要性は論を俟たない。そして歴史の第一の資源は史資料である。史資料の保存・活用なくして歴史学は成立しえない。③建築アーカイブズの必要性は、80年代から議論されてきた。しかし、実際には日本建築学会内にごく限定的な「建築博物館」を設けたに過ぎず、本来あるべき開かれた建築アーカイブズの姿からは遠い。2006-2009年度に学会に設置された建築アーカイブズ小委員会（主査鈴木博之東京大学教授（当時））では、従来の取り組みを反省し新たな課題を示す報告書『日本における建築アーカイブズの構築に向けて』（2007）を発行した。ここで、当時の日本国内の建築史資料の保存状況を調査するとともに、海外（とくに北米）のアーカイブズの実例調査を行った。現状では各大学建築学科が個別に建築家の資料を整理・保存している段階であり、公開の目処までは立っていない状況が明らかとなった。整理・保存の方法論の共有にはとうてい至っていない。

④2010年2月21日文化庁招聘事業のひとつとして開催されたシンポジウム「建築アーカイブの現在と未来」（東京大学）では、イギリス王立建築家協会（RIBA）図書館長のイレナ・ムレイ氏を招いて活発な意見交換がなされ一般紙においてもとりあげられた（朝日新聞2010年3月23日）。また2010年5月にはパリにおいて建築博物館国際会議（ICAM）第4回大会が開催される。主要文化先進国では公的な建築アーカイブズが設立され、運営活動のプレゼンテーションを通じて意見交換・相互協力の重要な場になっている。日本は建築アーカイブズを巡る国際的ネットワークに十分に参加できているとは言いがたい。

以上のような国内外の動向を受けて、建築学会建築アーカイブズ小委員会は2010年度から主査を山名善之（東京理科大学准教授）が務め、より具体的なプログラム策定の動きに入ろうとしている（戸田も最も若い研究者として本小委員会にて幹事を務めている）。本研究も建築界のこの動向の延長に位置する。

2. 研究の目的

本研究では「近代建築アーカイブズ構築のための日欧比較調査研究」として、近代建築アーカイブズ構築のための調査研究を通じて、日本における建築アーカイブズ構築のた

めの方法論を確立することを目的とする。日本は未だ公立の近代建築アーカイブズ（あるいは建築博物館）を持たない。そして数年来その必要性が唱えられている。建築は我々の都市環境を物理的・社会的に構成する人工物であり、とくに近現代史において重要な主題となるべきものである。歴史学における建築史資料保存の中核となるべき建築アーカイブズの欠落は、近い将来における悔悟となるだろう。本研究では先行する海外事例調査と、日本に個別に存在する諸建築資料群の現況調査を中心に、建築アーカイブズの比較調査研究を行う。またそこからアーカイブズ構築に資する方法論の確立を目指す。

本研究では日欧の比較研究を通じて、建築アーカイブズ構築の方法論を確立すべく、以下3つの調査指針をたてる。①西欧における建築アーカイブズ（建築博物館）の運営の事例調査 ②日本における建築書資料の現況把握とネットワーク化 ③建築アーカイブズ構築の方法論の研究とケーススタディへの応用（①②の二つは③建築アーカイブズ構築方法論の確立のための基礎調査研究と位置づける）

3. 研究の方法

上記3つの指針に沿って、調査対象を次のように定める。①ベルギー・近代建築アーカイブズ（Archives d'architecture moderne / AAM）、フランス建築協会の20世紀建築アーカイブズ（Archives d'architecture du XXe siècle, Institut français d'architecture / IFA）、オランダ建築協会（Nederlands Architectuurinstituut）、②日本建築学会建築アーカイブズ小委員会報告書『日本における建築アーカイブズの構築に向けて』（2007）掲載の建築資料群を元にした、教育機関・設計事務所を対象とした建築資料整理状況の実態調査 ③建築家関連資料のアーカイブ化（整理・保存）＝ケーススタディ

①については、ベルギーAAMならびにフランスIFA20世紀建築アーカイブズの資料整理体制を調査する。AAMは欧米でも最も古い建築アーカイブズの事例であり、創立者の一人であるMaurice Culot氏は、その後IFA20世紀建築アーカイブズの設立にも尽力した人物である。また充実したコレクションと施設をもつオランダのNAIも調査の対象とする。

②については、日本国内では現在、この建築資料群は主として大学等教育機関および建築設計事務所が独自に収集・整理・保存を行なっている。こうした個別の資料群が形成されている現状に照らして、建築資料群相互のアーカイブズ方法論の共有と公開を目指した、分散的な建築アーカイブズのモデルについて考察する。

③のケーススタディについては、戸田がアクセスしうる資料の中から候補を立てて作業

を進めていくこととする。

4. 研究成果

建築アーカイブズ構築のための方法論確立という研究目的に照らし、2010年度は①西欧における建築アーカイブズ運営の事例調査と②日本における建築書資料の現況把握を計画した。

①については、IFA20世紀建築アーカイブズおよびベルギーAAMにて聞き取り調査ならびに現地視察を行った（前者は2010年5月、2011年3月、後者は2010年5月）。IFAならびにAAMにおける。

・ダヴィッド・ペイスレ氏 (David Payceré : IFA20世紀建築アーカイブズ主席学芸員)

・アンヌ・マリー・ピルロ氏 (Anne-Marie Pirlot : AAM・アート・ディレクター)

そこで得られた知見をもとにIFA成立の背景と資料形成について、2010年度日本建築学会大会（北陸）建築歴史・意匠部門研究懇談会資料『近現代建築のアーカイブズとドキュメンテーションの諸問題』（2010年10月）に「フランス建築協会・20世紀建築アーカイブズ その成立と現状の報告」を寄稿した。またその際には『建築博物館』の著書もある建築史家ヴェルネ・ザンビアン氏にフランスにおける建築コレクション成立の歴史的背景を教示された。フランス、ベルギーの建築コレクション形成の端緒は18世紀後半に遡るが、近代建築コレクションの形成は、1970年代に起源をもつ。フランスにおいては建築家・理論家ベルナル・ユエ (Bernard Huet)、ベルギーにおいては建築史家モーリス・キュロ (Maurice Culot) を中心に、歴史的建造物の保存修復にとどまらず、歴史的都市景観と近代建築との全身的融和を課題として、歴史的建造物・デザインへの関心が高まるとともに、建築アーカイブズの重要性も意識された。美術史家アンドレ・シャステル (André Châstel) のキャンペーンなども功を奏して1986年にフランスでは文化省公文書局 (Direction des archives de France) と設備省建築局 (Direction de l'architecture)、そしてIFAとのあいだに協定が結ばれ、IFAが公式に「20世紀建築アーカイブズを扱う中継センターとして」認定された（他、IFA20世紀建築アーカイブズの施設・運営概要については上述の日本建築学会研究懇談会資料掲載の研究報告を参照）

②については、日本建築学会建築歴史・意匠本委員会下の建築アーカイブズ小委員会（主査：山名善之）の場において、各委員間を主とした情報共有・意見交換が中心となった。歴史・意匠委員会を中心に出された前述研究

懇談会資料「近現代建築のアーカイブズとドキュメンテーション」にまとめられた国内建築資料の現状報告を基礎とし、今後具体的な状況調査を展開していく必要性を確認した。2010年度においては当初オランダにおいて、NAI主席アーキビストであるアルフレッド・マークス氏 (Alfred Marks) に聞き取り調査を行うとともに現地視察を行う予定であった。また、実際的な建物保存・都市景観形成に資する建築資料の保存・活用の事例としてオランダ建築財団副代表であり、ロッテルダムの景観委員会委員も務めたルドルフ・ブラウアー (Rudolphe Brouwer) 氏に照会を行っていたが、東日本大震災後による混乱からこれを中止した。

2011年度前期においては、改めてNAIの主席アーキビストである Alfred Marks 氏に聞き取りを行うとともに、施設を視察するとともに、フランスでの追加調査を行った。

2011年度後期においてはフランスでの追加調査とともに、国内アーカイブズ調査として、戸田が2011年度からあらたに着任した金沢工業大学建築アーカイブズ研究所所管資料ならびに日本建築学会建築博物館所蔵資料について、アーカイブズ・データの取り扱いを中心に調査した。以上の調査研究の過程からとくに施設規模において日本にとってモデルとなりうるフランス IFA20 世紀建築アーカイブズの建築アーカイブズ検索システム ArchiWebture

(archiwebture.citechailot.fr/) をもつ IFA の現地調査・目録調査の結果と、国内の事例として日本建築家協会と金沢工業大学で組織される JIA-KIT 建築アーカイブズの資料の取り扱いについて考察した。日本においては、いまだ建築アーカイブズの横断的な検索システムは構築されていない。またヨーロッパの先進諸国のように公立の集中的建築アーカイブズをもたず、分散的建築アーカイブズの形成が現実的である日本において、資料相互の横断的な情報環境の形成は必要なことと思われる。IFA20 世紀建築アーカイブズと JIA-KIT 建築アーカイブズとを比較すれば、後者において〈担当者〉〈構造・階数〉〈延床面積〉〈建築面積〉〈敷地面積〉〈施行〉等、建物規模等の図面から読み取れる情報はすべて転記する方針であり、美術資料としてのみならず産業資料としての側面を重視しているといえる。一方で IFA に比して建築家が作品に関与する経緯や、また資料形成のコンテキストに関する情報、さらには作品そのものに対する記述に乏しい。たんに資料を収集・整理・保管するだけでなく、資料保存を知的生産へと還元する仕組みづくりが必要であろう。日本における建物資料の保存という問題は、緒についたばかりではあるが、資

料の保存ばかりに意識が向き、その公開性には留保のつく資料も多い。資料の公開は、建築資料保存の重要性を一般に啓蒙するとともに、さらなる建築資料保存の展開を促すものである。今後も運用を前提とした資料整理のあり方を模索する上で、建築アーカイブズにおいて先進的な地域の取組の調査は意義をもつ。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 0 件)

[学会発表] (計 0 件)

[図書] (計 1 件)

①『近現代建築のアーカイブズとドキュメンテーションの諸問題』2010年度日本建築学会大会(北陸)建築歴史・意匠部門研究懇談会資料、日本建築学会編、2010年10月
(戸田穰「フランス建築協会・20世紀建築アーカイブズ — その成立と現状の報告 —」pp. 119-120)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

6. 研究組織

(1) 研究代表者

戸田穰 (TODA JO)

金沢工業大学・基礎教育部・講師

研究者番号：00588345

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

研究協力者

David Peyceré

(Archives d'architecture du XXe siècle,
Institut français d'architecture, Paris,
France)

Anne-Marie Pirlo

(Archives d'architecture modern,
Bruxelles, Belgique)

Alfred Marks

(Nederlands Architectuurinstituut,
Rotterdam, Netherlands)

Werner Szambien

(Centre national de la recherche
scientifique / Centre Châstel, Université
de Paris IV)